旧芦原小学校グラウンド再整備事業について

はじめに

1. 旧芦原小学校の現状

○旧校舎 ······ 教育委員会所管

西宮市立総合教育センター等として利用

・本館(1,989 ㎡/築78年), 東館(1,045 ㎡/築58年), 西館(1,232 ㎡/築53年)

- ・大学・生涯学習推進課(宮水学園)は、フレンテ西宮 4F へ移転済(H26.5 末)
- ・スクーリングサポートセンターは、こども未来センターへ移転済(H27.8 末)

○グラウンド ······ 市民文化局所管

西宮市立中央体育館分館の運動場として利用

- ・なかよし少年野球場
- ・同少年野球場以外のグラウンド部分

2. 再整備事業の対象施設

○**グラウンド**(なかよし少年野球場を除く。以下同じ)

○旧校舎本館・東館解体跡地(段階的に整備)

3. 運動施設の利用状況

○利用者数と利用率: H26 年度

・体育室 : 52,701 人 (92.8%) AM9 時~PM9 時

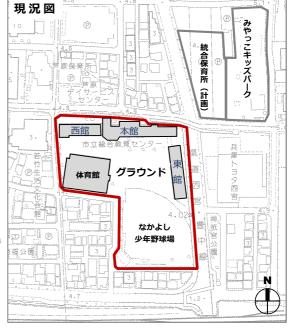
・少年野球場: 4,292 人 (100%) ±日祝 AM9 時~PM1 時

・グラウンド: 4,924 人 (31.9%) AM9 時~AM11 時

○グラウンドでの主な年間行事

・郷土盆踊り大会(8月)、みんなの運動会(9月)

・西宮湯川記念こども科学教室(9月)















グラウンドの再整備方針(案)

1. 基本方針

芦原小学校跡地は、地域においてこれまで担ってきた地域活動や災害時の避難場所等としての重要な役割のほか、本市の都市核の一部を形成する JR 西宮駅・阪急西宮北口駅周辺を繋ぐ位置にあり、計画中であるものを含め周辺には子育て支援施設が集積していることから、このたびのグラウンド再整備にあたっては、次のとおり、これらの特性を活かした機能の充実・連携を図るとともに魅力あるまちなみの形成に資する広場整備を基本方針とする

○賑わいの広場

旧校舎の一部(西館)を改修して活用することで学校施設としての記憶を継承しつつ、地域の恒例イベントのほか、地域内外の交流やふれあいの促進、近接する子育て支援施設との連携など、新たな付加価値を加えた賑わいの拠点・シンボルとなるオープンスペースを創出する

○安心安全の広場

指定避難所の体育館と隣接した避難スペースとなる広場には、耐震性貯水槽のほか災害時に活用できる防災遊具やマンホールトイレ等を備え、地域の防災活動拠点としての機能の向上を図る

○憩いの広場

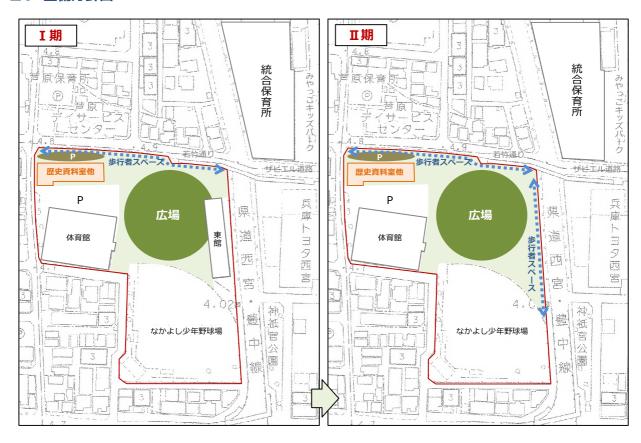
広場の一部芝生化やシンボルツリーの配置のほか、道路に面 しては歩行者スペースの拡幅とあわせた修景緑化を施すなど、 みどり豊かで憩いと潤いのあるオープンスペースを創出する 地域活動・地域交流 賑わいの広場

地域防災 安心安全の広場

みどり豊かな 憩いの広場

3つの要素

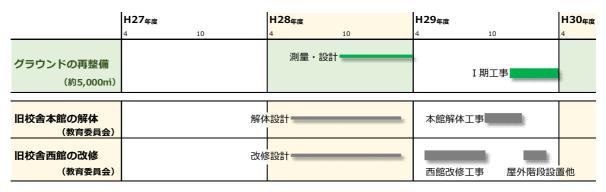
2. 整備方針図



3. グラウンド再整備の進め方

- ○まず最初に、老朽化が進む**旧校舎本館を解体**する 本館解体前には、教員研修センター機能を東館及び西館に移転
- ○本館解体後は、むつみ保育所・むつみ児童館・芦原保育所統合施設(以下「統合保育所」)の開設予定時期(H30.4)にあわせて**若竹通りに面した歩道を拡幅**し、歩行者等の安全性の向上を図るとともに、 駐車場整備や修景緑化を施す
- ○同時に、グラウンド部分では**一部芝生化や植栽、防災遊具の整備**など、こちらも統合保育所の開設予 定時期にあわせて広場整備を進める
- ○旧校舎西館については改修工事を行い、**旧芦原小学校や地域の歴史資料室等**として引き続き利用を継続する
- ※旧校舎東館については、市役所本庁舎周辺の庁舎再編整備に伴い教員研修センター機能が移転した後に解体し、その跡地には広場スペースを拡張するとともに、若竹通りと同様、今津西線(県道西宮豊中線)の歩道に面して歩行者スペースの拡幅と修景緑化を施す

○事業スケジュール(案)



○関連事業スケジュール(案)

統合保育所の整備 (こども支援局)	測量·設計	工事	オ-	★ ープン
ザビエル道路の改良 (土木局)	測量・設計	工事		